

会 議 録

1	会議名	第5期南砺市協働のまちづくり推進会議 第7回推進会議（全体会）
2	議題	1. 開会 委員長あいさつ 2. 議事 今後のスケジュールについて 専門部会の進捗状況の共有について 3. 閉会 副委員長あいさつ
3	開催日時	令和5年9月4日（月） 開会時間：午後7時／閉会時間：午後9時
4	開催場所	南砺市役所 別館3階 大ホール （南砺市荒木1550番地）
5	出席者	[委員：全20名] ※50音順、敬称略 出席：荒木 信人、磯辺 文雄、江田 攻、長田 正勝、齊藤 優華、 佐竹 弘昭、嶋田 早苗、竹部 俊恵、中山 明美、能登 貴史、 長谷川 邦子、林 則雄、松本 久介、南 眞司、渡辺 洋子 欠席：上坂 紀子、坂本 博昭、俵 圭子、松嶋 裕治、藪 英雄 [市：出席2名] 事務局 南砺で暮らしません課長 大浦 幸恵 南砺で暮らしません課 山下 真人 協働のまちづくり係長
6	傍聴者	0名
7	内容及び 決定事項	協議内容 ・今後のスケジュールについて 決定事項 次回の専門部会を開催し、部会ごとに協議内容のとりまとめを行う。 ①どうする？みんなでまちづくり部会（部会長 渡辺 洋子） 第4回部会 日時：9月12日（火） 19時から 会場：井波コミュニティプラザ「アスモ」大会議室 ②情報公開推進部会（仮称）（部会長 江田 攻） 第4回部会 日時：9月13日（水） 10時から 会場：井波コミュニティプラザ「アスモ」内 南砺市協働のまちづくり支援センター 会議室 ③提言に関する検証及び見直し部会（部会長 能登 貴史） 第1回部会 不開催

1. 開会 委員長あいさつ

林委員長

相変わらず暑い日が続いている。今年の夏は記録的な猛暑となったが、そのような中、6月から8月にかけて各部会を開催していただいた。いろいろとご討議いただいた内容について、本日は中間報告いただき、提言に向けてさらに前に進めていきたい。

2. 今後のスケジュールについて

(事務局より資料説明)

林委員長

提言することを前提として11月末までにとりまとめ、最終的には12月に提出するスケジュールとなっている。このとおりに進めていきたい。

3. 専門部会の進捗状況の共有について

渡辺部会長（どうする？みんなでまちづくり部会）

これからどうすればいいのかな？という皆の思いから、この部会名が決定した。AさんにKPTなどの手法を取り入れていただき、話し合いがスムーズに行うことができた。1回目では、この条例が市民に周知できたかな？について意見を出し、なかなかできていないという現状を確認した。2回目では、今後どうしたらいいか？について意見を出した。市民と行政が情報を共有していろんなことを進めるためにどうしたらいいかを宿題として3回目を行った。市政出前講座について、受け身ではなく、市がもっと積極的に前に出ていくことが必要といった意見もあったし、雲南市の行政との関わり方や、神戸市のわかりやすい冊子など、他市の事例も参考に検討した。まちづくり基本条例を基にしっかりと取り組みが進むよう、地域の皆さんと協働して、市民の不安や心配が少しでも無くなるようにしていきたい。

A委員（補足）

部会名の決定に時間がかかったことから、初めはどうなるかと思っていたが、女性の率が高かったこともあり雰囲気良く、ファシリテーターを引き受けさせていただいた。委員一人一人の思いが話し合いの中にしっかりと反映できたと思う。目指している会議の形がまさにこの部会だと感じた。

江田部会長（情報公開推進部会）

南砺市の情報公開は、制度に則ってある程度しっかりと進められてい

る、しかしながら、非常に意見に乏しいことから、パブコメや実証実験の問題点を中心に議論を行った。パブコメを取るタイミングや概略の説明、サンプリング、各地域づくり協議会とのタイアップ、出前講座開催時での紹介などの意見が出た。パブコメがほとんど無いということから、市民に本当に理解されているのかどうか疑わしく、本当の意味で、基本条例に基づいているのかについて深掘りし、情報公開のあり方をもう一度見直してみる必要がある、このことについて諮った上でとりまとめたい。

B委員（補足）

市民に立案段階から意見を聞くことが必要。全ての委員会等には難しいのかもしれないが、学校のあり方検討では、何の事前説明も無しに、住民が全然知らないところで話が進んでいくようなことがあった。公共施設再編計画についても、公共施設の総面積を半分にすることだけが先走り、具体的なことが伝わっていない。市は条例に書いてあることをやることはやっているが形式的なものに流れてしまっていないだろうか。重要な案件については特に、立案の段階で住民説明会をもっと活発にやるべき。

能登部会長（提言に関する検証及び見直し部会）

（資料について説明）小規模多機能自治の5年目になるので検証してほしいという思いで提案した。

B委員

どんな計画も5年程度で見直しを行うことから、今、検証すべきということもわかるが、これまで小規模多機能自治を進めてきて、頑張っているところと、そうでもないところ、それから、3年間はコロナで活動が制限されたこと、また、何をすればいいかわからないまま4年間で過ぎていったところなど、いろいろある。市からの交付金は使わなかったものは戻し入れることになっていることから無駄遣いしているとは思わないが、これまで、小規模多機能自治を進めるにあたり、当初、市は議会からの質問に対して、あれもやれ、これもやれ、ではなく、自発的にできることからやわやわと進めてもらえばいい、との見解で答弁しているが、これが問題の発端。5年目を迎え、これまでのままではダメだということで、新しい交付金のシステムを導入した。取り組みに応じたインセンティブを設けるとともに、成果が見えるようにして、他の地域づくり協議会と比べて、取り組みを触発する。これを2年、3年とやっていく中で、効果が見えてくる。今はまだ、小規模多機能自治の効果を検証するタイミングではない。

A委員

それぞれの地域づくり協議会の実績というよりも、小規模多機能自治の導入によって市民と行政の関係がどのように変わったのか？市民のモチベーションを引き出せているのか？住民参加型の住民自治の仕組みにつ

いて、市がどれだけ積極的になったのか？ということを検証したい。

B委員

市が地域づくり協議会に丸投げするのではなく、住民の窓口として情報提供ができているのか？ということであれば意味があるかもしれない。

C委員

南砺市の小規模多機能自治で、機能しているところや機能していないところについての住民の意見を確認するために、Aさんの提案を、他の二つの部会で話し合ってみるのはいかがでしょうか？

D委員

市との連携、行政と市民との接点を今後どうしていくか、という視点に置き換えるなど、Aさんには部会の中で話をさせていただいた上で、再度検討していただきたい。

その他、これまでの部会長からの説明に対して意見があればご発言いただきたい。

E委員

以前、課題ごとに円卓会議が行われていたが、最近あまり行われていないのでは？という意見もあった。31地域づくり協議会が全体で行政と話し合うのが大事だと思う。

F委員

福祉、防災など、円卓会議によって、縦割りではなく、横のつながりができていた。円卓会議は小規模多機能自治の一つの目玉。膝を突き合わせて話をするのが大事。

G委員

井波に新しいお店がたくさんできているが、地元住民は何が起こっているのかわからなくてギクシャクしている。何にも情報が無いままでは応援のしようもない。円卓会議でそういったことも話していくべき。

B委員

小規模多機能自治の先行事例の中で、これだと思ったのが円卓会議と各地区取り組み発表会。円卓会議は、行政が事前に市民の意見を聞く機会であり、フラットな場で、防災や交通政策などテーマを絞って、住民の困りごとなどいろんな意見を聞いて計画を立案する。市の各部・各課はそういった意識をしっかりと持って取り組まなければならない。住民の意見をしっかりと聞いて、政策に反映させなさい、といった提言は大賛成。

H委員

行政が住民の方へ一歩踏み出すことが必要だと思う。

C委員

提言としてどう書くか、上手くまとめることを考えなければならない。今の、円卓会議が形骸化しているとの意見について、行政のことや地域のこと、市全体のことなど様々あるが、それらの旗振りを誰がやるのか？それをこの推進会議が担って仕掛けていくということもあるのではないだろうか？市民による第2の議会のような環境を整えることになるかもしれない。

A委員

円卓会議を行った後、そこで出された意見が施策に反映された、といった報告が無い。また、平成29年～30年頃に開催された小規模多機能自治市民会議では、地域特性による横のつながりを重視した提言がされているが、南砺で暮らしません課ではちゃんと引き継がれているのか？

I委員

まちづくりは行政がしっかりとグランドデザインしなければならない。

J委員

市のいろんなイベントも、何のためのイベントなのかが市民に伝わっていないように感じる。

C委員

イベントにしても先ほどの井波のお店にしても、地元の方はプレーヤーになっていないし、プレーヤーと地元を繋ぐものがないのが問題。

K委員

市が計画に着手する前に、意見を公募したり円卓会議を開催したりして、市民の意見を聞く場を設けることが大事だと思う。

D委員

今後どうするかについて、各部会の意見を出していただきたい。

渡辺部会長

次回の部会を開催したい。

江田部会長

計画段階から市民の意見を聞く機会をしっかりとつくるべき、というのがこの部会としてのまとめ。これ以上議論しても変わらないと思う。どう

する？みんなでまちづくり部会でも同様の意見が出ているとすれば含めてもらってもいいのではないだろうか。

C委員

提言書としてどう書くか。あえて別項目で出す方法もあると思う。

D委員

部会のまとめとして、しっかりと出してほしい。

A委員

提言書のたたき台は、運営委員会と市でまとめていただくのがいいと思う。提言に関する検証及び見直し部会については、提出した資料の「小規模多機能自治」を「条例」に置き換えればどうだろうか。市民と行政が上手くいっていないということを検証できればいい。

D委員

それぞれ部会を開催して、まとめてください。

C委員

それぞれの部会が文書として出すのが基本だと思う。部会の期限もあると思うので、第8回の全体会をいつやるのか、先に決めればどうか？

林委員長

最終的には11月末までに提言書としてまとめていくが、10月末には素案ができてるように、それぞれの部会のスケジュール調整をお願いしたい。

また、本日の意見の中にあつた、今年から地域づくり協議会への新しい交付金のシステムとして導入した、地域事業推進費の取り組みメニューについて、ご存じない方もおられると思うので、資料の提出をお願いしたい。取り組みメニューと取り組み状況の一覧について、次の部会ごとに資料として出してほしい。

4. 閉会 副委員長あいさつ

齊藤副委員長

市民の意見をどれだけ聞けるか、ということについて、その仕方やシステムなど、部会ごとに切り口が違うだけで思いは同じだと感じた。そのプロセスを提案していく、というのは大変難しいことだと思うが、皆でいろいろな意見を出し合って進んでいくことを期待している。

本日はありがとうございました。

